

鳥海山山行報告

報告：加賀谷健治（S 36 E）

- 実施日：平成24年7月21日（土）～23日（月）
- 参加者：東京秋工会ハイキング同好会（会員平均65.7歳、今回参加者平均64.6歳の元気な高齢者）
代表）堀健市（S 38 A）、事務局）田口芳美（S 43 E）
加賀谷健治（S 36 E）、小林誠一（S 37 K）、奥山恍（S 41 K）
嵯峨良平（S 43 E）、下總勉（S 47 A）

今回は故郷秋田の名峰「鳥海山」登頂である。私が旭北小学校山王中学校に通学時に、よく晴れた日には通学路の新国道（国道7号線）の先に「鳥海山」の全貌を眺める事が出来た。この思い出深い山に生涯に一度は登りたいと思っていたので、東京秋工会ハイキング同好会の計画に参加することにした。

7月21日（土）は8:00に自宅を出発、秋田新幹線こまちで秋田駅まで行き、羽越線に乗り換えて羽後本荘駅に、そこで由利高原鉄道に乗り換えて矢島駅に16:29に到着。矢島駅前で今回参加するメンバーと合流、迎えのマイクロバスで今夜の宿舎「鳥海荘」に向かう。

鳥海荘は鳥海山の北東の山麓に位置した本荘市鳥海町猿倉字湯ノ沢にある温泉場の休養宿泊施設である。翌日の登頂口の鉢立てとは反対側に位置しているが同行の奥山氏がインターネットでマイクロバス送迎付き格安パックを探して予約したとの事であった。

鳥海荘ではアルカリ性温泉に浸かり肌が滑々として若返る様だ。その後夕食ではオプション料理秋田由利牛ステーキを交えた料理で、生ビールと地酒天寿のナデシコを堪能し翌日の銳気を養う。



由利高原鉄道車両は宇宙戦艦ヤマト



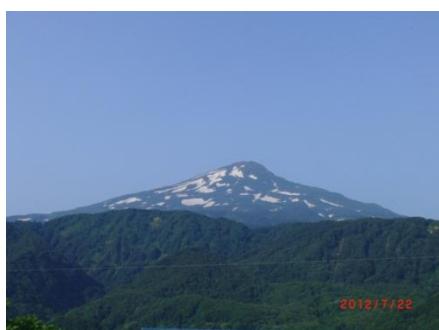
生ビールで乾杯



出発前鳥海山を背景に

7月22日（日）は、朝食を30分早めてもらい6:30から摂り、鳥海荘を7:29にマイクロバスで出発。天候は快晴、車窓から鳥海山が良く見渡せる。バスは山麓を東に向かい登頂口の象潟口（鉢立）に8:30到着。

8:47鉢立てから登頂開始。登山道尾根沿いの石段が続く、山頂に祭る「大物忌神社」の参道の石段かと思ったが賽の河原で途切れた。登山の両側にはニッコウキスゲやシラネニンジンなどが咲き乱れ心を和ませる。



北側から見た鳥海山



シラネニンジン（？）



ニッコウキスゲ

10:53 お浜神社（お浜小屋）に到着。すぐ近くにはカルデラ湖（鳥海湖）が見渡せ、海側からの風で湖の水分が雲に変わった様子が見られその風がとても涼しい。近くにはクルマユリ、チングルマが咲いていた。



鳥海湖を背景に



クルマユリ



チングルマ

11:08 お浜から東に尾根道をたどり、ややきつい八丁坂を登り 11:68 に七五三掛（しめかけ）に到着。ここで、約1時間の昼食休憩。堀氏、田口氏がコンロでお湯を沸かして作ったインスタント味噌汁で鳥海荘で調達したおにぎりを食す、肉体労働後の食事はとてもおいしい。食後にコーヒーまで頂いた。

12:53 七五三掛を出発いったん下ってから千蛇谷を登る。千蛇谷は秋まで残る雪渓で、右手は外輪山の絶壁、左手は新山ドーム。雪渓を横断して小休憩、雪渓で飲み物を冷やして飲むその旨い事。その後ひたすら登りに入り途中小休憩しながら 15:25 頂上御室に到着。



七五三掛（しめかけ）で昼食後



千蛇谷右は絶壁沢山の岩が落ちている



千蛇谷にて

頂上御室（大物忌神社）前にザックを降ろし、新山（鳥海山頂上）に向かう。溶岩の岩山に矢印で示された登山道を登り 15:30 チーム全員新山頂上に到着。快晴 360 度の大パノラマに感激。なお、翌日は雲に覆われ景色が見えなかったとのこと、幸運だった。御室山小屋で夕食前にまずは焼酎とウイスキーで祝杯。



鳥海山頂上 2, 236 m



周囲 360 度の大パノラマ



御室山小屋で祝杯

翌朝7月22日は、薄曇に覆われ全員雨具を着て計画より26分早い6:34に御室山小屋を出発。鳥海山2番目に高い七高山に7:01に到着。7:08矢島口（祓川）に向かって下山を開始。途中雪渓が続き爽快だが、足元が滑って転倒多発。皆恐る恐る歩くので、予定の40分の2倍近い68分がかかりやっと8:20氷の薬師に到着。ここで全員鳥海山の旨い湧水を飲み、そして水筒に補給。



雲の中の大物忌神社



七高山山頂2, 229. 2m



矢島口コースの雪渓

氷の薬師を8:30出発するが雪渓が続き計画の時間に遅れだす。10:00に祓川に呼んでいる乗合タクシーの時間が気になるリーダーの堀さんは、先頭に立って皆をせかすが隊員の足元が滑って思うように進まない。やっと20分遅れで10:30祓川に到着、タクシーが待っていてくれてひとまず安心。



延々と続く雪渓



賽の河原の手前に水芭蕉の群生



咲き遅れたあやめ

すぐ乗合タクシーに乗車し11:20に矢島駅に到着。全員無事に目標を達成。由利高原鉄道矢島駅では地元ボランティアのお姐さん達による「そうそうと まだ ござらしてくださいはれー」と書いたのぼりで丁重なお見送りを受ける。

真夏でも雪渓が残る爽快な鳥海山の登山は、天候にも恵まれ、身も心もリフレッシュできた思い出に残る古希記念でした。ご同行頂いた皆さんありがとうございました。



祓川神社有名な割には貧弱な祠



矢島駅に全員無事到着



矢島駅ではお姐さんの見送り

以上